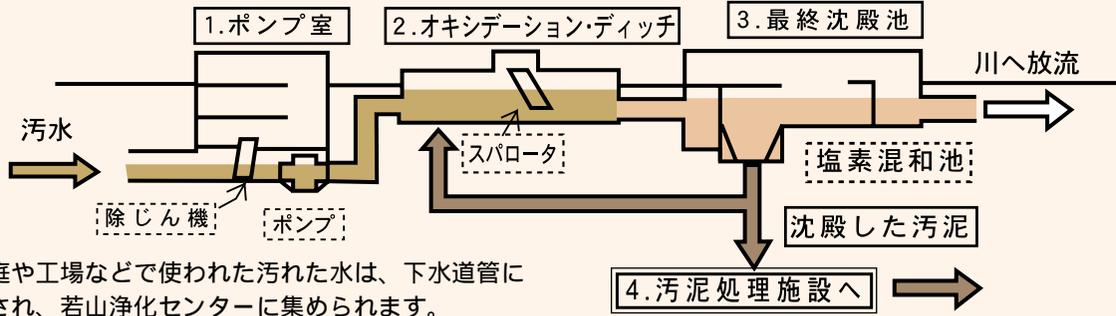


若山浄化センターの汚水処理の仕組み



家庭や工場などで使われた汚れた水は、下水道管に流され、若山浄化センターに集められます。

ポンプ室

市内の各所から集められた汚水は、若山浄化センターの地中深くに作られたポンプ室に入ります。ここでは、大きなゴミなどを機械で取り除いた後、汚水をポンプでくみ上げ、汚水を処理する水槽（若山浄化センターではこの水槽を『オキシデーション・ディッチ』と呼んでいます）に送っています。

オキシデーション・ディッチ

陸上競技のトラックの形をした水槽で、空気を好む微生物（『活性汚泥』といっています）を利用して汚水をきれいにしています。その様子は、みそ汁をかき混ぜたときの状態と似ています。活性汚泥に空気を送り込むとともに水をかき混ぜるため、スパロータという機械が使われています。

最終沈殿池

水の流れを緩やかにし、オキシデーション・ディッチで処理された水と活性汚泥とを分けるための水槽です。その様子は、みそ汁を静かにおいたときの状態に似ています。水槽の底の方に沈んだ活性汚泥は、ポンプでくみ上げられてオキシデーション・ディッチに返されます。また、上澄みの水は、塩素剤による消毒を行う水槽（『塩素混和池』といっています）を通った後、近くのヤンケシ川に流されます。

汚泥処理施設

活性汚泥は、汚水をきれいにすることによって増えていきますので、オキシデーション・ディッチ内の量を適切に保つために、一部が除かれ、水分を少なくするための濃縮・脱水といった作業が行われた後、クリーンセンターでゴミと一緒に燃やされています。

【表1】 下水道の状況

（平成14年3月31日現在）

総人口	5万4,673人	1日最大汚水量	8,500立方 m^3
供用開始面積	770.1 km^2	普及率	68.7%
供用開始人口	3万7,573人	水洗化率	77.1%
水洗化人口	2万8,979人	下水道管渠延長	170.2 km
年間処理汚水量	226万2,150立方 m^3		

総人口：登別市の住民基本台帳に登録されている人口

供用開始面積：下水道が利用可能な区域の面積

供用開始人口：下水道が利用可能な区域に住む人口

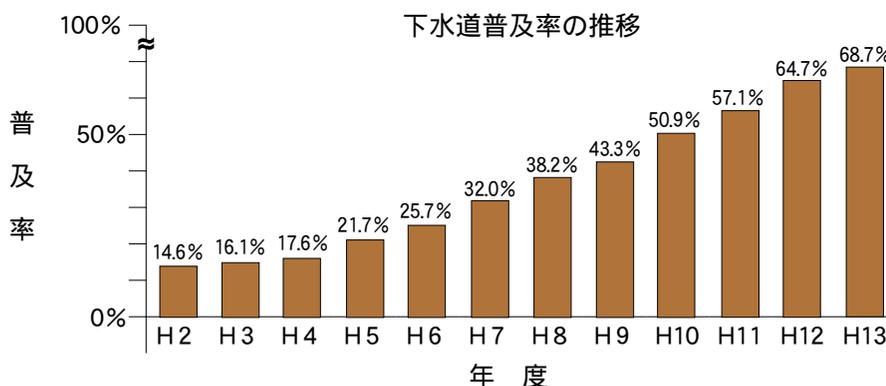
水洗化人口：下水道を利用している人口

年間処理汚水量：若山浄化センターで処理している年間の総汚水量

1日最大汚水量：若山浄化センターで処理している1日の最大汚水量

普及率：総人口に占める供用開始人口の割合

水洗化率：供用開始人口に占める水洗化人口の割合



います。
一方、終末処理場の若山浄化センターの建設は、下水道管の整備と並行して行われ、平成2年10月に処理を開始しています。
終末処理場は、流入する汚水量の増加を予測しながら段階的に増設して処理能力を上げており、現在、1万2千500立方 m^3 /日の処理能力にするための増設工事を行っています。

これまで下水道事業に要した事業費（平成13年度末まで）は、約289億円になっています。
今年度の事業
平成14年度の整備は、5ページ【表2】平成14年度の項目の区域を行う予定です。
さらに、登別地区の整備に向けては、幌別地区と登別地区を結ぶ幹線